

船舶事故調査報告書

平成30年9月5日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 佐藤 雄二（部会長）
 委員 田村 兼吉
 委員 岡本 満喜子

事故種類	衝突（消波ブロック）
発生日時	平成30年2月5日 20時20分ごろ
発生場所	長崎県小値賀町小値賀漁港 小値賀港黒島南防波堤灯台から真方位250° 120m付近 （概位 北緯33° 10.9′ 東経129° 03.8′）
事故の概要	プレジャーボート ^{ゆうほ} 勇帆丸は、航行中、消波ブロックに衝突した。 勇帆丸は、同乗者1人が負傷し、船首部外板に圧損等を生じた。
事故調査の経過	平成30年2月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート 勇帆丸、6.1トン NS2-23275（漁船登録番号）、個人所有 12.45m（Lr）×2.63m×0.81m、FRP ディーゼル機関、367.75kW、平成8年11月24日 第292-42925号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 62歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成元年9月14日 免許証交付日 平成26年4月10日 （平成31年9月13日まで有効） 同乗者A 男性 48歳
死傷者等	重傷 1人（同乗者A）
損傷	本船 船首部外板に圧損等 消波ブロック なし
気象・海象	気象：天気 雪、風向 北西、風力 2、視界 不良 海象：波高 約2.0m、潮汐 上げ潮の初期
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者A及び船長の家族（以下「同乗者B」という。）を乗せ、小値賀町大島漁港に帰港する目的で、平成30年2月5日20時05分ごろ小値賀漁港の船だまりを出発した。 本船は、船長が操舵室右舷側にある椅子に腰を掛けて操船に当たり、レーダー及びGPSプロッターを作動させ、約12.5ノットの

	<p>対地速力で手動操舵により小値賀漁港内を南進した。</p> <p>本船は、小値賀港島防波堤灯台の南西方沖に至り、同灯台を左舷側に見て左転した後、船長が操舵室右舷側の窓を開けて顔を出し、左手で舵輪を操作しながら、黒島沖防波堤南西端と黒島南防波堤北東端との間の港口（以下「本件港口」という。）に向けて東進した。</p> <p>船長は、本件港口において、小値賀港黒島南防波堤灯台を右舷側に見て右舵を取り同灯台を通過した後、船首が大島方向に向いたところで、舵を中央に戻したつもりで窓を閉め、GPSプロッター画面の輝度を下げようと舵輪から手を離し、GPSプロッターの輝度調整を始めた。</p> <p>本船は、船長がGPSプロッターの輝度調整を終えて船首方を向いた直後、20時20分ごろ黒島南防波堤南側に設置された消波ブロックに衝突した。</p> <p>同乗者Aは、操舵室左舷側後部に船尾方を向いて立っていたところ、衝突の衝撃で船首方に飛ばされ、同室左舷側前部の船室入口の上部に上半身を打ち付けた。</p> <p>本船は、船長が、機関を後進にかけた後に負傷者の確認を行い、同乗者Aが痛みを訴えたので、操舵室左舷側前部の船室入口に船尾方を向いて座っていた同乗者Bに119番通報を指示し、自力で航行して発航地へ戻った。</p> <p>同乗者Aは、救急車で小値賀町内の診療所に搬送され、左第8、9、右第8肋骨骨折と診断された。</p> <p>（付図1 事故発生経過概略図 参照）</p>
<p>その他の事項</p>	<p>船長は、本事故当時、出発前にGPSプロッター画面を昼間モードの最も暗い状態としていたが、操舵室内が明るく船首方が見えづらかったので夜間モードに切り替えて輝度を更に下げようと思い、輝度調整を行った。</p> <p>船長は、GPSプロッター画面の輝度を下げること意識が向き、舵を中央に戻したと思い、舵輪から手を離してしまったと本事故後に思った。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、小値賀漁港において航行中、本件港口付近で右転した際、船長が、舵を中央に戻したと思い、GPSプロッターの輝度調整を行っていたことから、右転しながら黒島南防波堤に向かう状況となっていることに気付かず、同防波堤南側の消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、夜間、本船が、小値賀漁港において航行中、本件港口付</p>

	<p>近で右転した際、船長が、舵を中央に戻したと思い、GPSプロッタの輝度調整を行っていたため、右転しながら黒島南防波堤に向かう状況となっていることに気付かず、同防波堤南側の消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 航行中、針路の変更時には、航海計器等の調整を避け、操舵を確実にし、船位を適切に確認すること。

付図1 事故発生経過概略図

